

区分	演題	座長
実践報告①	大津信亮（株式会社Beyond the Limits）9時30分～9時55分 テニス選手へのビジョントレーニング導入について	石井大会会長
	テニスはスポーツの中でも多くの視覚機能を必要とします。今回は、テニス選手が普段の練習から取り入れやすいスポーツビジョントレーニングについてお伝えします。	
	都築朋秀（海老名市ソフトボール協会理事）10時00分～10時25分 中学校部活動（女子ソフトボール部）でのビジョントレーニング活用	
	部活動でのビジョントレーニングの取り組みを紹介します。	
実践報告③	加藤裕之（理事長）高橋有希子（副理事長）（特定非営利活動法人 NPOみるみえる）10時30分～10時55分 『めがねのまちさばえ』での目の健康体操	石井大会会長
	めがねのまちさばえより、めがねを掛ければ救えるお子さんのお手伝いをしたいとの思いから始めた弱視の早期発見早期治療の啓発活動内容についてと、児童生徒や、高齢者の方々への目の健康体操の実施状況及び、ビジョンヨガの開発秘話をお伝えさせていただきます。	
実践報告④	上坂実（一般社団法人スポーツ・ウィズ・ハート代表）11時00分～11時25分 「スポーツ現場におけるビジョントレーニングの活用」	石井大会会長
	「心技体」＋「眼」。スポーツ現場のなかで取り入れているトレーニングやその効果をご紹介します、ビジョントレーニングの可能性についてお伝えします。	
特別講演	山本直之（山本光学株式会社 代表取締役社長）11時30分～12時00分 水谷選手のサングラスについて	長田理事長
	昨年夏の世界が注目する国際大会において、卓球という屋内スポーツでのサングラス使用実績と今後の可能性について水谷選手本人にもリモート出演いただき、紹介させていただきます。	
研究報告①	清水聡太（株式会社メニコン）13時30分～14時05分 北海道のサッカークラブに所属する選手(小中学生)を対象とした3年間のスポーツビジョン研究	田中顧問
	小中学生のスポーツビジョン測定に係る報告は少ないことから、北海道のサッカークラブに所属する選手(小中学生)を対象に、定期的なスポーツビジョン測定に関する研究を2018年12月に開始し、3年間にわたってスポーツビジョン測定を実施した。本発表では研究の取り組みを紹介するとともに、3年間の結果を報告する。	
研究報告②	菅原充（株式会社QDレーザ 代表取締役社長）14時10分～14時45分 レーザ網膜投影技術のスポーツビジョン／ヘルスケア分野への応用	田中顧問
	使用者の視力や視野部位に関わらずフォーカスフリーの高精細画像が得られるレーザ網膜投影技術をスポーツビジョン／ヘルスケア分野に応用した際に期待されるメリットを詳述する。	
研究報告③	吉澤達也、草野勉（神奈川大学人間科学部）14時50分～15時25分 頭部運動と眼球運動の授業形態による差異	田中顧問
	近年の遠隔授業導入により大学生の受講形態に変化が生じている。講義内容もその変化に伴って変容しているが、受講している学生の行動変容や心理的変容も推測される。そこで、本研究では、視覚行動の定量的変容について観察した。	
教育講演①	原口翔太（東北文化学園大学）15時35分～16時10分 視能訓練士の役割と屈折矯正	魚里参与
	視能訓練士（Certified Orthoptist : CO）は、小児の弱視や斜視の視能矯正や視機能の検査を行う国家資格を持つ専門技術職あり、日本では1971年に誕生した。本講演では、視能訓練士の役割と業務の一つである屈折検査と視力検査について述べたいと思う。	
教育講演②	田中繁（日本スポーツビジョン協会顧問）16時15分～16時50分 神経科学からみたスポーツビジョン測定	魚里参与
	スポーツビジョンとして考えられている視機能は、脳神経系の視覚領のみならず認知、意思決定、運動生成／制御、情動などに関わる様々な脳領域が関与していると考えられる。本講演では、脳の機能的観点から従来のスポーツビジョン測定法について考察する。	